

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成23年4月末現在の取組状況	実施時期
1	地域に貢献する高齢者への支援	子供たちの通学をサポートする高齢者グループを支援します。通学路に沿って自分の住む地区から隣の地区まで子どもたちと一緒に通学サポートする「みな孫見守り隊」。パトロールのために委託費として警備会社に支出していた費用を「みな孫見守り隊」の経費として地域に還元します。	単位老人クラブの23年度の事業計画によれば、地域の防犯パトロールや登下校時の見守り活動を計画している(週1回、月4回程度)のは27クラブであり、今後も老人クラブの会合等を利用して協力を呼びかけていきます。ただし、高齢者のサポート体制が難しい北部、東部地区については地域の方々と協議のうえ、児童下校時の巡回パトロールを警備会社への委託という手法により継続して実施していきます。なお、平成23年度は、北部地区(西合志第一小学校、西合志中央小学校)に2名、東部地区(合志小学校)に1名、計3名を委託により実施しております。また、市内全校のPTA役員及び防犯パトロール隊員へ防犯グッズ等を配布し、防犯体制の更なる強化に努めてまいります。	1年以内
2	放置自転車撤去条例の制定	放置自転車防止条例をつくり、住環境保全と自転車盗などの軽犯罪の防止に努めます。	平成22年9月30日に条例制定し、放置自転車等を撤去しています。昨年度における半年間の実績は、22台を撤去保管し、7台を持ち主へ返還したところです。	1年以内

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成23年4月末現在の取組状況	実施時期
3	公共交通と温泉を使った安全・健康・交流支援「湯ったり乗ったり弁天カード制度」	ユーパレス弁天の温泉が100円で何時でも利用できる便利なカード「湯ったり乗ったり弁天カード」を販売します。公共バスの利用は、高齢者の交通事故を防止し、地球環境にもやさしく、温泉は心身の健康や、旧町市民の交流に役立つなど、たくさんの相乗効果が期待されるはずです。	<p>65歳以上及び障がい者手帳をお持ちの市民を対象に弁天カードを発行し、入浴に際しカードを提示すればユーパレス弁天の温泉を200円で利用できる制度です。昨年10月からのコミュニティバス試行運転に併せて実施しており、現在3ヵ月券を9人が利用している状況です。</p> <p>また、平成23年2月定例会市議会で、みどり館と老人憩いの家の両施設の利便性を高め、利用を促進することを目的に入館料や休館日の統一を図る改正を行いました。なかでも入館料を一律100円とする見直しに関する条例改正が議決されたことを受け、湯ったり乗ったり弁天カードについても、100円で利用できるように補助要綱改正等を早急に対応していきます。</p> <p>(みどり館、老人憩いの家の主な改正点)</p> <p>①入館料の統一(市内個人、団体ともに100円 市外個人400円、団体300円)</p> <p>②休館日の統一(憩の家 毎週月曜日、みどり館 毎週火曜日 年末年始6日間のみを休館日とする)</p>	1年以内

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成23年4月末現在の取組状況	実施時期
4	ごみの減量化とリサイクル促進	マイバック運動、資源物回収運動、ダンボールコンポスト等ごみの堆肥化の普及促進、リサイクルセンター等の誘致を積極的に行います。	<p>①マイバック運動について 平成22年9月にレジ袋削減推進協議会を設置し、取組内容を協議のうえ、市内事業者への説明会を実施しました。現在、平成23年6月の取り組み開始に向けて準備を行っています。取り組みは、レジ袋の有料化を行うこと、有料化ができない場合はマイバックの持参を啓発することを予定しています。</p> <p>②資源物回収運動について ごみの減量を目的に、地域の子供会や老人会等、環境団体による資源物回収活動に対して補助しており、今後もその活動を拡大して行くための啓発に努めていきます。</p> <p>③ダンボールコンポスト等普及促進について 生ごみの減量化の手段として、ダンボールコンポスト事業(生ごみの堆肥化)を行っています。平成20～22年度までモニター制度を行い、約1,000人のご協力をいただき、36,450kgの生ごみの減量ができました。平成23年度は1年間を通して300人×3回のご協力をいただき、生ごみ 45,000kgの減量を進め、経費約140万円の削減を考えています。</p> <p>④リサイクルセンター等の誘致について リサイクルセンターについては、現在、同様の施設を菊池環境保全組合(一部事務組合)で環境美化センターとして運営されています。その兼ね合いから、費用の試算(事業実施費用、センター建設費用)や取り組み内容の検討や事前検証の実施の検討や関連事業(資源回収団体助成事業)との調整など十分な調査を行う必要があります。 平成23年度は、取り組み内容の検討を行います。</p>	1年以内
5	地元中小企業支援 地域が頑張れる条例の制定	地元企業への発注を原則とする条例をつくりまします。	平成22年9月に条例を制定し、合志市中小企業等活性化会議を立ち上げ、現在まで3回の会議を開催しました。 今後は、市内中小企業の現状を把握するため、産業実態調査の実施を予定しております。その後、実態調査結果を分析したうえで中小企業等の具体的な振興策を検討していくこととしております。	1年以内

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成23年4月末現在の取組状況	実施時期
6	まちづくりに市民のアイデアを！ チーム「宝箱」	合志市に住むことがより楽しくなるような、色々なアイデアを出せる市民の組織を作ります。	合志市の将来に関して、市長マニフェストの各種事業の中で、企業等が得意とする分野あるいは関心のある分野において、創意工夫により地域社会発展のため、多方面からの指導・助言をしていただくためのシンクタンク的組織を想定しております。当面は市から委任する正式な団体という位置付けは行わず、組織への参加はオープンとし、何人でも参加できるような組織とすることを前提に制度設計を検討中です。	1年以内
7	手弁当 合志市が大好き検討委員会の設置	住民参加の手段として「市民自主参加型検討委員会」を作ります。	自治基本条例に基づいた参画と協働によるまちづくりの原則を踏まえ、市全体や地域に関係する計画、立案、検討に対し、関係市民に参画してもらおう、必要に応じて検討委員会を設置することとしています。	1年以内
8	健康に結びつく様々な活動を融合させた健康づくり	行政職員がコーディネーターとして活躍すれば、スポーツや文化活動、ボランティア活動など多様な取り組みを健康に結びつけることが可能です。	様々な活動を融合させた健康づくりを推進するための組織づくりを検討中です。 なお、少人数のグループでも健康に結びつく講座が開催できるような環境整備を行い、出前講座のPR等を行うこととしています。	1年以内

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成23年4月末現在の取組状況	実施時期
9	みんなで祝おう100歳の誕生日	高齢者祝い金は、現状では1万円の祝い金で、100歳以降毎年1万円が支給されています。年間20名にも満たない対象者であり、市民みんなで祝う価値があると思うので10万円に増額します。	<p>多年にわたり社会の発展に寄与された高齢者に対し、敬老祝金等を贈呈することで、長寿を祝い、労をねぎらうとともに、市民の敬老思想及び高齢者の生活意欲の高揚を図るものです。</p> <p>なお、実績等については次のとおりです。</p> <p>(平成22年度実績)</p> <p>①本年度、100歳の誕生日を迎える方に、敬老祝金10万円とお祝いメッセージを12名の方に贈呈しました。また、承諾を得て広報にも掲載しています。</p> <p>②本年度に限り、101歳以上の方に、10万円から昨年度まで贈呈した祝金を差し引いた額を20名の方に贈呈しました。</p> <p>(平成23年度)</p> <p>本年度、100歳の誕生日を迎える方に、敬老祝金10万円とお祝いメッセージを贈呈します。また、承諾を得て広報に掲載します。(贈呈予定者14名 贈呈済1名)</p>	1年以内
10	障がい者の自立支援と優しさを持つ企業への公的支援の検討	人と人が支えあう施設などの運営を支援し、1人でも多くの雇用につながるよう公的な支援制度をつくります。	平成22年度において障害者就労・運営支援制度策定委員会を2回開催し、平成23年度から公募により補助団体等を選定のうえ事業を実施する予定です。	1年以内
11	楽しい子供会活動活性化支援体制づくり	子供会活動自体が保護者の負担になっているため、活動を行政が積極的に支援するチームをつくとともに、行政の能力を活かした人的支援を行います。	市内単位子ども会で組織されている子ども会育成連絡協議会を通じて、子ども会活動についてのアンケート調査を実施し、問題点及び課題等について、協議会で対応策を検討するとともに、市職員の地域支援の促進と子ども会活動の活性化に向けた取り組みを実施しています。	1年以内

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成23年4月末現在の取組状況	実施時期
12	給食費振り込み制度の検討	旧西合志町では振り込みが可能ですが、旧合志町では当番制になっています。それぞれにメリット・デメリットがありますが、よりよい方法を皆さんとともに検討します。	これまで、保護者から口座引落とし方式への移行の要望等も多く上がっておりますので、平成23年度に給食費の口座引落とし、滞納対策等を含めて、学校、PTAと協議を行いながら進めていきます。	1年以内
13	教師力の向上：がんばる先生が頑張れる環境をつくる	子どもたちのために、自己研さんに励む先生たちに市が研究費用を支援し、ひいては子どもたちの学力・体力向上を目指します。	平成23年4月1日から「がんばる先生支援補助金交付要綱」を施行し、市内小・中学校長に対し、補助金交付要綱の内容を説明のうえ、教職員からの事業計画書の提出を依頼する等、事業を進めております。なお、平成23年度は、25万円×10校＝250万円の予算で事業展開を図っていきます。	1年以内
14	子育て中の働く人たちが、より働きやすい環境整備	働く人たちのリフレッシュ施設である体育館、グラウンド、研修室など一般に開放する公共施設の使用料を見直します。	施設使用料のうち、市内料金でばらつきがあった料金については、安価な方に合わせ、平成23年4月1日から実施しています。また、総合センターで行う市主催行事について、要望に応じた一時託児の運用についても平成22年10月から行っています。	1年以内
15	スピード感のある行政経営「まちづくり戦略室」	まちづくりの課題解決のため、企画立案・実施まで一貫して行う市長直轄の部署を作ります。	平成22年7月の組織改正により、まちづくり戦略室を設置いたしました。今後ともまちづくりの課題解決のためにスピード感のある行政経営に努めていきます。	1年以内

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成23年4月末現在の取組状況	実施時期
16	地域を守る消防団便りの発行	身近に地域防災を担ってくれる消防団や自衛消防隊の活動状況を広く市民の皆さんにお知らせすることで、防災意識の高揚と消防団活動の維持・拡大を図ります。	広報「こうし」の平成22年9月号に消防団活動の特集記事、また、平成23年3月号に消防団だよりを掲載しました。今後も消防団に関する特集記事を広報誌を通じて定期的に情報発信していきます。	1年以内
17	広報「こうし」:より面白く充実した情報の提供	市の課題を明らかにし、事業を起こす前から市民と意見を交換することのできるような双方向の情報交換ができる広報誌づくり・情報受発信を進めます。	<p>広報「こうし」の平成22年10月号に、広報こうしについての意見募集記事を掲載し、平成23年1月号に、意見募集に係る結果報告の記事を掲載したところです。</p> <p>意見結果を見ますと、行政情報やイベント情報をはじめとした、「役立つ情報」を求められていること、「市民の活躍や話題」を楽しみにしていること、「市民参加型のコーナー」を希望していることなどの意向が多いことなどが分かりました。</p> <p>このような状況を踏まえて、双方向性の紙面づくりを目指し、現在、職員有志による広報、ホームページのあり方を検討する広報PR部会を立ち上げ、掲載内容の検討、技術的手法の勉強会の開催等を行なっています。</p> <p>今後、部会内での検討を経て、紙面の編集や記事、写真等の市民からの情報提供の仕組みや、編集作業のボランティア募集等、広報紙や市ホームページの活性化に向けた取り組みを進めていく事としています。</p>	1年以内
18	次世代へ引き継ぐための公共投資	身近な住環境の整備に積極的に取り組みます。高齢化が進むと住宅や土地を手放すことも考えなければなりません。誰もが住みたくなくなるような、より財産価値をあげることでできる公共事業に積極的に取り組むことで、若い世代へ財産を引き継ぐことが可能となります。	泉ヶ丘、すずかけ台、杉並台、永江等の築年数が相当年経過した団地内の道路や側溝については、計画的に整備を進めております。また、子どもからお年寄りまで誰もが安全、安心で楽しく過ごせる公園を適正に維持管理していくとともに、次世代へ引き継ぐ財産となるよう、積極的な整備に取り組んでいきます。	1年以内 H22～25年度

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成23年4月末現在の取組状況	実施時期
19	子どもたちが安心して通学できる環境をつくる	各小中学校の通学路の防犯灯設置率を100%に引き上げます。	平成22年度に各学校からの要望のあった箇所について、90基の防犯灯を設置し、環境整備を図ったところです。 今後も各学校等と協議のうえ、財政状況を勘案しつつ、計画的な通学路の環境整備を進めて行くこととしております。	2年以内
20	動物と共生する条例策定	飼い主の責任と義務を明文化し、ペットとともに快適に暮らすことのできる環境と社会を作ることを目指し、市民と一緒に条例をつくります。	動物と共生する条例制定については、他自治体の制定状況や類似条例等の比較検討を行い、平成23年度制定に向けて進めていきます。 また、たばこ・空き缶等のポイ捨てやペットの糞及び放し飼い等を抑制する看板の設置など、景観を損なわない町並みの形成を図ることも検討します。	2年以内
21	子ども会議による遊び場確保	子どもたちの意見を活かし、一緒に作っていく子ども参加型の遊び場確保が必要です。大学との連携で得られるまちづくりのノウハウを活かしながら子ども会議を開き、子ども達と一緒に遊び場構想を練り、事業を実施します。	今年度夏休み頃を目途に、公園利用に関する子どもたちとの意見交換会の場を設け、より利用しやすい遊び場を提供できるよう進めていきます。また、遊び場構想を練るにあたり、その受け皿の一つとして、地区計画等により開発された団地内にある街区公園を集約し、3,000㎡程度の公園を設置する計画についても併せて進めていきます。	2年以内

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成23年4月末現在の取組状況	実施時期
22	ボランティアに感謝の気持ちを表し活動を広げる表彰制度	ボランティアに対する正当な評価が得られる仕組み、市民への理解を促し、ボランティアの輪を広げ、感謝の気持ちを表す表彰制度を作ります。	ボランティア活動を通じて社会に貢献されている個人や団体の更なる活躍を祈り、感謝の気持ちを表すと共に、広く市民へボランティア活動の輪を広げていくことを目的とし、市民、各区(自治会)、市内小中学校、民生委員・児童委員、ボランティア連絡協議会などから推薦された個人および団体に対し、感謝状を授与していくことを想定しております。表彰対象者は個人、団体ともに限定はいたしません。状況に応じて限定する必要がある場合は、合志市総合政策審議会へ諮問、選考を行なうことを基本として、表彰制度の内容を検討していきます。	2年以内
23	合志市のお宝発掘：人材マップの作成	合志市には、魅力ある人たちがたくさんいます。優れた人材は合志市の宝です。色々な特技や能力を地域に活かしたい人、教えてもらいたい人、そんな人たちの橋渡しをする人材マップを作ります。	合志市内在住の市民を対象に、いろいろな特技や能力を持った人を人材(財)バンクとして登録してもらい、各地域づくり活動の中で、各団体等が必要とする人材(財)の紹介を行なうことを基本として、制度設計を検討中です。なお、市外版として、市外に在住する本市出身者や、本市にゆかりのある人などで、本市のイベントやまちづくり、県外でのPR活動の手伝いをしてもらえる人材(財)を募集し、登録してもらい、ふるさとサポーター制度(現在の登録者数7人)を既に先行実施しております。	2年以内
24	学校給食 おいしいご飯で健康な体をつくる	子どもたちが家庭用炊飯器を使って、クラスごとに温かご飯を自分たちで炊き上げ、お茶碗に一人ひとりがよそう学級給食を進めます。	炊飯器給食を実施するために必要な設備等の検討を行ったところ、炊飯ルームや電源拡張工事など多額の経費が必要となります。また平成22年度で農林水産省の補助金が廃止されております。以上のことから、当初は補助事業で実施することを想定しておりましたが、補助事業が廃止されたことにより、市単独での財源確保が必要となるなど、マニフェスト作成時と状況が大きく変わっておりますので、見合わせたいと考えております。	2年以内

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成23年4月末現在の取組状況	実施時期
25	さわやかな学習環境をつくる	受験前の中学3年生のクラスを対象にクーラーを整備します。	平成23年度で実施設計業務の委託料を予算化しております。さらに、平成24年度に補助事業で合志中学校6教室、西合志中学校3教室、西合志南中学校7教室にエアコン設置を計画しておりますので、財政状況を考慮しつつ、計画的な環境整備を進めていきたいと考えております。	2年以内
26	合志市女性センター「かすみ草館」設置	男女共同参画社会の実現をみんなで推進するまちに合志市女性センター「かすみ草館」を設置します。合併した市には、旧町ごとの歴史資料館があります。二つの歴史資料館を一つに統合し、不要となった施設に女性センターを設置します。	歴史資料館と郷土資料館の統合の可否について、文化財保護委員会での意見を踏まえ、既存の両施設の一方への収蔵(統合)はスペースが不足することから、新たな収蔵庫施設を拡充する必要があり、地域の利便性、有益性を考慮のうえ検討したいと考えています。なお、市男女共同参画推進懇話会及び市女性連絡協議会「まちなつと“セラヴィ”」に対して、その必要性等についての協議・検討も行っております。	2年以内
27	歴史・伝統文化の共有:歴史探訪バス「まちなつめぐり食べさる紀バス」の運行	春夏秋冬年4回のまちなつめぐり食べさる紀バスを走らせ住民交流とお互いの理解を促進させます。	平成22年度から、ふるさと探訪バスを実施の際、歴史探訪目的地にあわせ、昼食場所を市内飲食店等を利用のうえ、地産地消の郷土料理等を提供するよう変更いたしました。その結果、かなりの好評を得ている状況ですので、今後も継続して実施していきたいと考えております。	2年以内

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成23年4月末現在の取組状況	実施時期
28	市民・議会・行政の協調による事業仕分け	市民、議会、行政の協調により、事業仕分けを行います。無駄な事業費のカットは、市民、議会、行政が共に進めるべきものです。市民第一に二元代表制の中でお互いの責務を明確なものとしします。	各事務事業について、①行政サービスとして必要か不要か ②必要であれば、市が実施すべきか民間が実施すべきなのか ③市が実施すべきであれば、改善は必要か現行どおりで実施するか の視点で事業仕分けを行なうこととしております。平成23年度は検証も含め、試行的に実施することとし、各分野(総務、産業、福祉、教育)の中から2分野を選択のうえ実施することを基本として、具体的なスケジュールや、組織する事業仕分け委員会の設置に係る規則の制定に向けて準備してまいります。	2年以内
29	消防署の誘致	合志市・菊池市・大津町・菊陽町で構成する菊池広域連合消防本部の中で、人口が集中し、また、構成市町村への出勤を考えると、圏域の東西をつなぐ大津西合志線、南北を結ぶ住吉熊本線の交差する合志庁舎前は候補地として最適です。関係市町長との協議を積極的に進めません。	消防署の誘致については、関係市町との協議を働きかけていますが、協議・検討に相当の時間を要するため、当面、菊池地域広域連合の4署(南・北・西・泉ヶ丘)の体制を維持堅持することとしています。これを踏まえ、平成23年度は、西消防署の耐震化に伴う建替えの設計委託を予定しております。	在任期間中
30	黒石原演習場への災害対策拠点づくり	現状の広大な自衛隊演習場に熊本都市圏の災害対策拠点としての機能を持たせ、そこにいたる災害対策緊急避難道路の整備、災害対策緊急医療機関としての熊本再春荘病院、菊池恵楓園の機能強化、緊急医療ヘリポート等、都市近郊に位置する自衛隊施設を市民のための有効な施設となるよう国に強く働きかけます。	交渉が防衛施設庁の複数課にまたがるため、再春荘等の医療機関とも連携をとりながら、国・県の助成を視野に入れつつ、災害拠点及び高度医療施設等の関係機関へ働きかけを行ってまいります。	在任期間中

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成23年4月末現在の取組状況	実施時期
31	合志警察署の誘致	<p>大津警察署管内で最も犯罪件数の多いのが、光の森周辺の菊陽町、合志市です。警察業務の現状や市としてのポテンシャルを考えれば警察署の誘致も不可能ではありません。警察官としての経歴、熊本県議会議員、国会議員秘書としての経験を活かし、実現に向け動きまます。</p>	<p>平成22年12月、熊本県と熊本県警察本部に対し、合志警察署の新設についての要望書を提出いたしました。</p> <p>また、市民の要望活動として平成23年2月に「合志市安全・安心なまちづくりをめざす連絡協議会」を設立し、警察力の強化に対する署名を実施し、本年3月に1万8千人分の署名を、菊陽町と共に県及び県警察本部へ提出したところです。</p> <p>今後も誘致活動を積極的かつ継続的に行ってまいります。</p>	在任期間中
32	自家用車に頼らずに済む公共交通網の整備	<p>現行の循環バス、環状バス、乗り合いタクシーなど公共交通の充実を高齢社会の現状にあつたきめ細かな事業展開を進めていきます。</p>	<p>平成22年度は、レターバス(環状バス)用の車輛を2台購入し、10月より右回り、左回りとも一日8便で試行運行を開始しました。</p> <p>また、循環バスについても再編を行ない、10月から5コースで試行運行を実施中です。</p> <p>乗り合いタクシーについては、10月から野々島地区、合生地区、須屋地区を対象に、4コースで実証実験を行ないました。</p> <p>今後の事業展開について、レターバスと循環バスについては、平成23年6月末まで現状での運行を継続し、同7月1日よりレターバスのダイヤ改正を行ないます。</p> <p>循環バスについては、同8月1日より一便あたりの利用者数が少ない3コースを乗り合いタクシー車両で運行し、平成24年度からの本格運行を見据えた、最終の実証実験を行なうこととしています。</p>	在任期間中

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成23年4月末現在の取組状況	実施時期
33	こうし大学、こうし高校の積極的な誘致	市には、高校、大学のグラウンドをはじめ、公的研究施設、さらには職に結びつく工業団地等があります。また、交通アクセスも良く、大学・高校などの立地に大切な要素が整っています。このような恵まれた環境を持つ合志市に似合う高校、大学の誘致を積極的に進めていきます。	<p>高校、大学そのものの誘致となるとハードルがかなり高いので、大学等の「キャンパス」としての誘致という位置付けで積極的な活動を図って参りたいと考えております。</p> <p>その官学連携の一つとして、農業に関心のある大学生に農村集落に入ってもらい、農業体験及び地域活動に積極的に参加し、体験を通して、若い世代に農業を知ってもらうとともに、農業に活気をもたらすことで地域活性化につなげようと考えています。その活動拠点として上庄区の農家の空き家をリフォームし、大学等の「合志キャンパス」という位置付けを行い、今後の事業展開を図っていくこととしております。</p> <p>これは、「農家の下宿屋制度」の延長線上にある事業として推進していきます。</p>	在任期間中

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成23年4月末現在の取組状況	実施時期
34	地域の発展バランスを考えた土地利用検討委員会の立ち上げ	新市建設計画で約束された県道大津植木線バイパスの整備促進と、従来の製造事業所だけではなく、研究施設や農業を活かした企業誘致など、地域特性を活かした土地利用の検討が必要です。	<p>まず、県道大津植木線バイパス整備促進についてですが、道路設計が完了し、今後、県による用地説明会の開催や境界の立会い等を経て用地交渉に入る予定でありますので、市としても用地取得に全面的に協力していくこととしております。</p> <p>また、土地利用検討については次の3つのエリアに分けて構想を練ることとしております。</p> <p>①従来から計画に上がっている合志庁舎南側の用地約25ha。南部市街化区域と庁舎を結ぶ賑わいのある土地利用を検討する。</p> <p>②辻久保から黒石までの国道387号線並びに熊本電鉄沿線の土地利用。九州沖縄農業研究センター、恵楓園など国、県有地を含めた多種多様な土地利用のあり方を模索する。</p> <p>③北熊本スマートインターチェンジ周辺の土地利用。北部九州から熊本・阿蘇方面への主要インターになることが予想され、流通基地や観光拠点としても活かしていく。</p> <p>上記を踏まえ、第一段階として、エリアごとに地域住民の意見を聞くことからスタートし、その際に市から地域の現状や課題のデータを示したうえで将来の姿を描いてもらう。</p> <p>第二段階として、市民代表、国、県、企業、大学、研究機関等で組織する「土地利用検討委員会」を立ち上げ、市民の意見を踏まえながら土地利用を検討し、エリア計画を作り上げる予定です。</p> <p>第三段階として、この土地利用検討委員会により、三つのエリア構想のバランスを図りながら、平成23年度中に土地利用計画を策定し、合志市として目指すべき将来都市像を明らかにすることとしております。</p>	在任期間中
35	都市計画の見直しができる市	合志市の市街化区域は1割にも満たず、日々の生活をおくるための商業店舗も簡単には建てられない状況です。既存市街地に隣接する市街化調整区域の土地利用をもっと使いやすくする必要があります。さらに、今必要なのは自分たちの住む町の土地利用を自分たちが考え、実行できることです。調整区域の規制緩和に向け、熊本県・熊本市・周辺市町との積極的な協議を進めます。	<p>本年2月に合志市、菊陽町、益城町、嘉島町合同で、集落内開発及び地区計画制度の要件緩和、柔軟な運用に関する要望書を県に提出したところです。県からは「個別の対応を含めて検討します」との回答を受けていますので、今後も関係市町と協議し、見直しができるように進めていきます。</p>	在任期間中

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成23年4月末現在の取組状況	実施時期
36	農業と農地を活かした住環境の整備を制度化	現在ある地区計画制度を見直し、市街化調整区域の農地に新たな付加価値が付くような仕組みをつくります。家庭菜園つきの集合住宅建設ができるよう地区計画制度を見直せば、土地所有者としては土地を手放すことなく安定した収入の確保ができ、借り手にしても市街化調整区域であるというデメリットがメリット(地価の安さと豊かな農地)に変わります。	上記の要望書に盛り込んで県に提出しております。	在任期間中
37	魅力ある農業と起業化	個々の農地、個々の技術を集結し、より安定した農業経営ができるような新たな農業組織・形態の検討と、農業生産法人の誘致など、農家所得の安定を図り、農業を魅力あるものとする農業政策を進めます。	健康ファクトリー構想に基づき、バイオフィレストサポートセンターや大学・研究機関との連携を行い、健康食材・農産物及び薬草等の研究と企業とのビジネスマッチングを図りながら「新産業創出」に向けた取り組みをコーディネートしていくこととしております。また、現在の取り組み事例として、新日本製薬(株)と合志市で4月5日に連携協定を締結し、甘草の試験栽培を実施中です。薬用植物である甘草の国内での露地栽培は国内初の取り組みであり、先進事例となるので、試験栽培を成功に導くことで、育苗技術を確立し、将来の合志市内の魅力ある農業形態の確立や薬草を原料とした加工品の製造など、産業化を視野に入れ、雇用の確保を含めた起業化を模索しているところです。	在任期間中

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成23年4月末現在の取組状況	実施時期
38	合志市の特性を活かした新しい産業の創出 健康ファクトリー構想	健康産業(農業・バイオ)は、合志市の特性に合った産業であり、魅力的なものとなるはずでず。身近なものに付加価値をつけて、健康をキーワードに農業、工業、商業が密接な関係を持ちながら大きな広がりを見せることができます。また、健康産業、健康食材、医療品・医薬品、農業、大学、研究機関等を集積させ、単なる観光ではなく、中長期滞在型の集客施設、県内はもとより広くアジア圏域から人を呼ぶことのできるような「おもてなしの産業づくり」エリアの検討を進めます。	バイオフィレストサポートセンターや大学・研究機関との連携を行い、健康食材・農産物及び薬草等の研究と企業とのビジネスマッチングを図りながら「新産業創出」に向けた取り組みをコーディネートしていくこととしております。 また、現在の取組事例として、新日本製薬(株)と合志市で平成23年4月5日に連携協定を締結し、甘草の試験栽培を実施中です。薬用植物である甘草の国内での露地栽培は国内初の取り組みであり、先進事例となるので、試験栽培を成功に導くことで、育苗技術を確立し将来の合志市内の魅力ある農業形態の確立や薬草を原料とした加工品の製造など、産業化を視野に入れ、雇用の確保を含めた起業化を模索しているところです。	在任期間中
39	公的医療機関と連携した県北の健康・医療拠点づくり	熊本県北部の中核的な医療センターとしての期待が高まる再春荘を核とし、菊池病院、恵楓園との連携を強化し、健康を支える医療拠点づくりを進めます	健康ファクトリー構想と合わせて事業展開していくこととしております。	在任期間中
40	健康総合グラウンドの整備促進	既存のグラウンドが市民の要望に合ったものであるか検証し、多くの人の利活用ができるような仕組みと、グラウンド整備を進めます。	平成23年度中にグラウンド利用促進検討委員会(仮称)を立ち上げ、市民の健康づくりの拠点となる健康総合グラウンド構想の検討を行います。	在任期間中
41	御代志～光の森線：100万都市公共交通構想	100万人の熊本都市圏にLRTやBRT環状線を持たせ、JR光の森駅と熊電御代志駅を結ぶ公共交通体系を整えます。	合志市としてはコミュニティバスの運行開始により1日数本の路線でJR光の森駅と熊電御代志駅の結節を図ったところです。 また、LRTやBRTによる環状線の実現に向けた取り組みについては、熊本市電の益城町延伸や熊本空港へのアクセス計画なども視野に入れ、今後「熊本都市圏協議会」の中で協議していくこととしております。	夢・アイデア

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成23年4月末現在の取組状況	実施時期
42	国・県の用地を賢く使う、発想の転換事業	堀川の沖野遊水地など、たとえば、ペットが、伸び伸びと走り回れるスペースや子ども達がサッカーや野球を楽しむにも十分な広さがあります。	沖野遊水地は、堀川の洪水調節のために確保してあります。多雨の時期に堀川が増水した際、遊水地へ越流しやすい構造となっています。このため、仮にグラウンド的な活用対策を講じたとしても、警報機設置や利用者への緊急避難誘導など、行き届いた安全対策を講じる必要があります。現在、安全管理を含めた様々な問題点の整理と市における有効活用の可能性について、河川管理者である熊本県と協議しているところです。	夢・アイデア
43	農家の下宿屋制度	産学官連携の一つとして、大学農学部や農業に関心のある大学生を下宿させます。バイトとして農業を手伝ったり、子どもたちの勉強を見てやったり、時には婚活にもなるかもしれません。若い世代に農業を知ってもらい、農業に活気をもたらす一つの制度として検討していきます。	県内大学生をはじめとする農業関係を専攻している学生やU・Iターン者及び農業研修生などの就農希望者を対象に、地域の遊休農地を活用して就農実地体験を実施することとしております。その活動拠点として農村部の空き家を宿泊可能な施設にリフォームすることにより、複数名での就農体験を可能とし、また、地元農家からの指導・助言により就農への意欲をかきたて、後継者不足の解消及び就農者の拡大を図ることを目的としております。なお、平成23年度は、連携協定を結んでいる熊本県立農業大学の学生による就農実地体験を上庄区において実施することとしております。	夢・アイデア
44	空家を活用したみんなが集う店づくり制度	地産地消と地域での生きがいづくりを目的として、地域住民で経営する指定日だけの店づくり。地域住民の憩いの場として、生産農家との触れ合いの場として、空き家や空き店舗の有効活用として、商売・笑売・生売。	まず農家の下宿屋制度における就農実地体験等を成功をさせることが、その後の地域活性化策としての広がりを生んでいくのではないかと思います。市としても活気のあるコミュニティ形成を視野に入れ、様々な手法を模索していきます。	夢・アイデア

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成23年4月末現在の取組状況	実施時期
45	農業による新たな雇用機会の創出	例えば「アニメ村」。アニメ原画書きを業とする若い世代を受け入れる村を作り、収入の足りない部分を農業でカバーする。若い世代の夢と、新しい農業雇用形態を築く取り組みです。	目標は農業による雇用機会の創出ですが、まずは合志市の認知度を高めるきっかけとして、世界的に知名度のある漫画「ONE PIECE」の主人公ルフィの声優であり、また劇団も主宰している「田中真弓」氏とヴィーブル子ども劇団との共演を計画しております。これを機に、子育て支援に力を入れている本市の活動として、幅広く市内外にPRしていきたいと考えております。	夢・アイデア
46	ドラえもんのような職員づくり	必要な物がすぐに出てくるドラえもんの不思議な四次元ポケット。色々な視点で物事をとらえ、みんなの夢をまちづくりに活かすことのできる行政職員。市民の要望に優しく、素直に応えることができ、フットワークの軽い行政職員・組織を目指します。自由に使える研修費を用意し、自主的な研修に取り組ませ、市民ニーズを的確に捉え、スピーディな対応ができる四次元ポケットを持った職員づくりを目指します。	テーマごとに意欲のある市職員をメンバーとする研究チームを設置し、地方分権時代における独自の地域活性化やユニークなまちづくり等の研究に取り組むため、 ①窓口ワンストップサービス②夏祭り③子育て支援④地産地消の推進⑤婚活に係る職員ボランティア募集を実施しております。 今後は、引き続き職員募集を行うとともに、部署にとらわれず、柔軟な発想で、より効率的で良質な市民サービスを提供するための研究を積極的に行っていくような組織づくりを検討していきます。	夢・アイデア
47	東熊本経済圏構想	熊本市、菊陽町、大津町等との人口100万人規模の経済圏を将来的な姿として捉え、広域的なまちづくりを検討することが必要です。	広域的なまちづくりを検討するため、4市9町1村で構成する「熊本市圏協議会」への問題提起等を行い、協議会において議論する方向で進めているところです。併せて道州制も視野に入れた整理も必要であるため、その情報収集及び検討についても進めていくこととしております。	夢・アイデア